

Access Report

2020年10月 5日号
アクセス教育情報センター

目次

学校情報	公開模試情報	教育情報	その他	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・開成中高 ・聖光学院 ・桐朋中 	<ul style="list-style-type: none"> ・四谷大塚9月 ・9月三模試合計 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試1 ・大学入試2 ・皆勤賞は必要か 	<ul style="list-style-type: none"> ・名言・迷言・冥言 ・中曽根元首相 ・アベノマスク 	<ul style="list-style-type: none"> ・杉田水脈

学校情報

開成中高 入試当日の応援ならび見学について

(ホームページより)

今年度の入試は、新型コロナウイルス感染症の予防につき、特段の注意が必要となっています。入試当日、受験生への感染予防のため、少しでも密な環境を避け、速やかに受験室への入場が出来るよう、駅周辺・学校周辺における塾の皆さんによる受験当日朝の応援については、厳に慎んでいただきますよう、お願い申し上げます。例年行っておりました、開成学園敷地内での場所の提供も行いません。

また、例年、五年生以下の小学生や保護者の方が、開成学園周辺にいらっしゃり、混雑を招いています。そのような入試見学・下見行為も、慎んでくださいますよう、お願い申し上げます。

受験生が少しでも感染の不安なく、試験に集中して、日頃の実力を発揮できますように、関係者皆様のご理解・お力添えを切にお願い申し上げます。

学校周辺での勧誘ビラ等の配布について

学校周辺で、塾の勧誘などのビラ配布が行われ、近隣の方々や本校の生徒の通行の妨げになっていることが多くあります。新型コロナウイルス感染症の予防のためにも、登下校の際の密な状態は極力避けねばなりません。学校周辺でのビラ配布は、ご遠慮くださいますよう、お願い申し上げます。

特に、文化祭、学園説明会、中学入試・高校入試関連の日のビラ配布は、ご遠慮くださいますよう、お願い申し上げます。本校としても、来校する皆さんの速やかな動線の確保に努めます。

<https://kaiseigakuen.jp/>

桐朋中 塾対象説明会WEB(前半)(2020年9月16日)

1)校長挨拶 片岡先生

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、本校では今年こまですべての学校説明会をWEB上で開催させて頂いております。本日の塾対象説明会ではまず私から学校の今の様子などについてお話をさせていただきます。



ご覧いただいておりますのはキャンパスの中心に広がる武蔵野の雑木林、宮林です。皆様どう耳を澄ましてください。鳥たちのさえずりに木漏れ日がかすかに揺れる夏の宮林です。

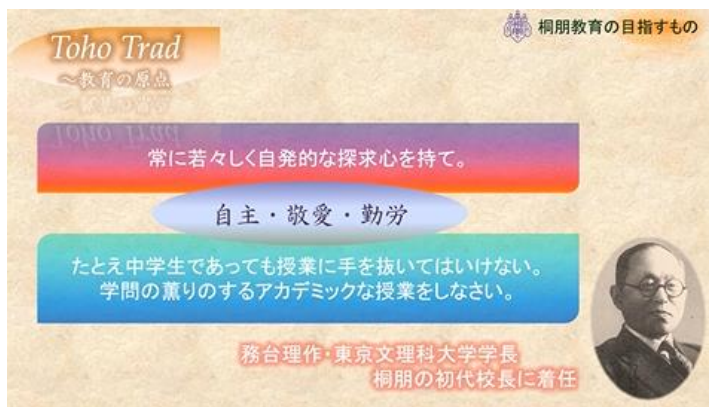
2020年の年明けから、中国に、ヨーロッパに、そして世界中へと瞬く間に新型コロナウイルス感染症が拡大する中で巡ってきたのはまさに沈黙の春でした。3月2日から臨時休校を余儀なくされた中、なんとか中高校の卒業式だけは行うことができましたが、当初、春休み明けまでとされていた休校措置が感染者の増加を受けて、5月の連休明けまで、さらには5月いっぱい延長され、がらんとしたキャンパス内で桜も山吹も花カエデも、そして冬の花もひっそりと散っていきました。昨年の中高塾対象説明会において、私は大学入試で必要とされるジャパンe-Portfolioにデータ連携ができる学習支援クラウドサービスを全国の高校が物凄い勢いで導入している点に触れて、テンプレートにテキストを流し込むことで見えてくるものが果たして主体性、個性なのではないかとお話しいたしました。桐朋はこれまで対面かつ集団で空間を共有しつつ交わされる質の高いやり取りを授業の基本とする学年運営、委員会、クラブ等の活動を通して自主的精神の養成を図ることこそ桐朋教育の本筋であると考えて、必要以上に前のめりのICT化には慎重な姿勢を保ってまいりました。しかしこの春新型コロナウイルス感染症パンデミックという異例の事態に直面して、生徒の学びを支えていくために各家庭にリサーチしてオンライン学習の環境を整え、教員一同、心を一つにして手探りであっても桐朋らしさを失わない取り組みを心がけながらオンライン学習を進めました。

- ・4月から、ロイノートを活用したオンライン学習支援を開始
- ・小中高の全家庭と協力してオンライン学習の環境整備を図る
- ・5月連休明けからZoomでのオンライン授業・HRを開始
- ・6月1日に中高入学式を実施、6月17日から一斉登校による授業再開

「囀りをこぼさじと抱く大樹かな」星野立子さんの一句のように誰一人こぼさず、置き去りにすることなく春の命を育てている宮林の木々はまさに私たちのお手本でございました。

桐朋学園は実業家山下亀三郎が寄付した基金をもとに、軍人子弟の教育を目的とした第一山水中学校として昭和16年、まさに軍国主義のその中に産声を上げました。そのような学校でしたから戦後は学校の存続すら危ぶまれましたが、1947年の教育基本法制定と時を同じくして東京文理科大学・東京高等師範の教育指導のもとに桐朋学園という新しい財団としてリスタートを切りました。ちなみに東京文理科大学の高等師範も後に東京教育大に引き継がれ桐の校章を用いていました。その校友ということで桐朋の名は生まれました。

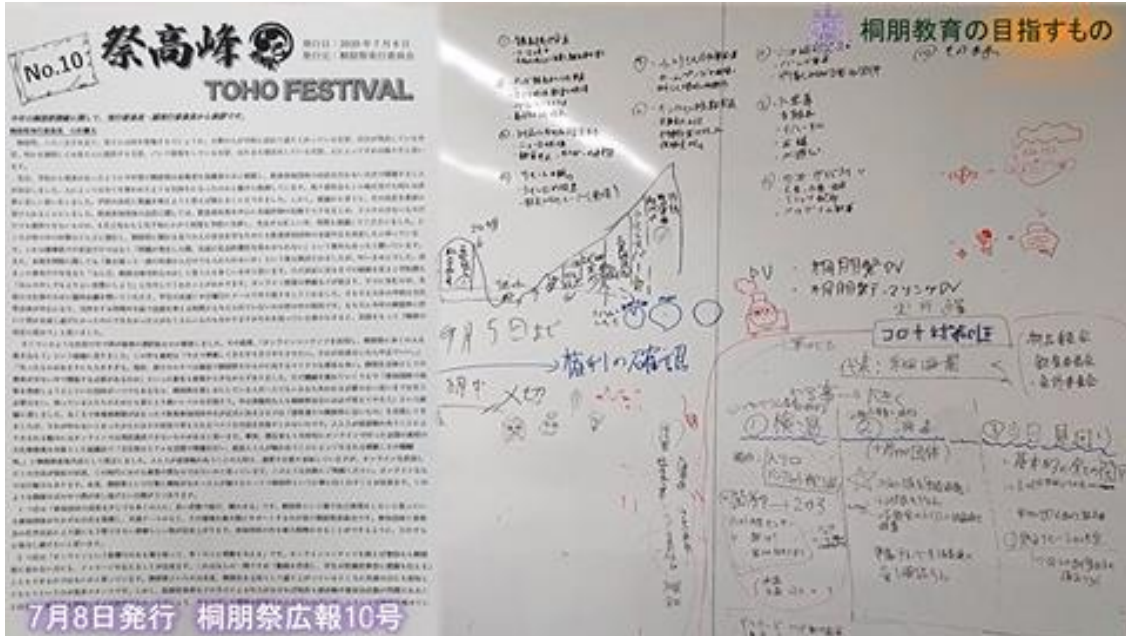
桐朋の初代校長に就任したのは、当時、東京文理科大学の学長であった哲学者の務台理作博士でした。務台校長は、当時の生徒達に常に若々しく自発的な探究心をもと語り、また教職員に対しては学問の香りのするアカデミックな授業をしなさいと伝えたと聞いています。



務台校長自身、教育基本法の原案作成者だったこともあり、桐朋の実践目標に掲げられた自主、敬愛、勤労はいずれも教育基本法の条文から引かれています。務台校長は自由の精神と民主主義教育の理想を桐朋教育の原点に定めたのです。教育の営みを重ねて、来年、桐朋は創立80年を迎えます。戦後という時代を貫いて桐朋高校新聞局が発行してきた学校新聞がPRESS TOHOです。1948年4月発行のPRESS TOHO第1号の1面の記事は何だったのでしょうか。それは戦後すぐに組織された学友会、今日の生徒会が各クラブの予算を決定したというものです。創立以来、桐朋では生徒会が生徒会費を管理し、各クラブと予算折衝を行って予算の配分を決めてきました。そして今日までそのシステムは変わらずに維持されています。生徒のことは生徒が決める。そうすることで、そこに集まった数多の個性がそれぞれに光を放つ場面が必ず用意され、常にエネルギッシュな雰囲気学内に保たれていく。そうした極めて自律的、躍動的な精神が桐朋を語る上で最も顕著な特徴と言えましょう。

今年は、部活動に取り組んでいる全国の中高生が、大会やコンクール等の目標などを取り上げられて悔しい夏を過ごしました。そんな中で7月23日から26日に開催された第83回東京陸上競技選手権において、本校の中高陸上競技部が目覚ましい成果を上げました。中学に入って初めて陸上競技に取り組む部員たちを顧問の教員やOB支え合いながら、自発的な努力を継続させてきた本当に誇らしい成果です。一方、大変な試行錯誤を強いられたのは桐朋祭委員会の生徒達でした。本校では例年6月初旬に実施してきた桐朋祭を、今年は9月に延期するという判断を致しました。こ

の後、コロナウイルス感染症の流行が拡大する中で、桐朋祭委員会の生徒たちと顧問の教諭たちとの間でシビアな話し合いが続きました。こちらは7月8日に発行された桐朋祭広報ですが、生徒自身が桐朋祭の開催をどのように判断したかについてその思いが克明に書かれています。



例年は1万名ほど来場される一般の方々に今年は来場をご遠慮いただき、露天や喫茶店といった飲食参加団体も今年は参加させないといった縮小案を議論しながら、当初は、自分たちがやりたいと思う桐朋祭ができないならいっそ中止の方が良いといった意見も多く出されたようです。しかし、例年の形の桐朋祭からあれもできないこれもできないと引き算をするのではなく、0の立場から自分たちがすべきこと、できることを積み重ねていこうという教員の声に生徒たちも反応し、コロナ禍という状況だからこそできる自分たちらしい桐朋祭を作り上げようという気持ちが固まってからはオンラインを活用する新しいアイデアが次々に生み出されていったのです。



巴の模様は渦を巻いた様子を表しています。
桐朋生はもちろん、一般の方々も巻き込んでいき、
出来上がった巴の模様を「巴太鼓」で「ドン！」と響かせる
そんな桐朋祭を創り上げたいという願いを込めました。

これは今年の桐朋祭のテーマ「巴」を説明する彼らの言葉です。桐朋祭にみんなを巻き込んでいき、最後に巴太鼓とドンと響かせようという見事な表現だと思います。当日は会場で、あるいはオンライン上でどんな音が響くのか今から楽しみでなりません。

「桐朋って自由な学校ですよ」私たちはよく外部の方からそんなふうに聞かれることがあります。私は自由とは能力なんだと思います。すなわち、それは誰にも依存せずに自分の足で立つ能力です。簡単なことのように見えますが、自分の足で立つということは自分自身が常に本質を踏まえて、何が正しいかどうかあるべきかを判断することができる的確な知性を備える必要があります。その上で、その

判断の上に立って自分は社会とどうつながり、今、何をすべきか、絶えず新たな何かを選び取っていく、そんな主体的なあり方こそまさに自由なのだと思えます。桐朋祭委員会の試行錯誤はまさにこの過程にあたります。

桐朋は生徒の自主性を育てる学校です。自らを打ち込むものを見出し、仲間とともにそれを成し遂げていく。そうした経験を重ねながら、桐朋生はそれぞれが自分は自分でいいのだというとてもない自信を身につけていきます。真の主体性とはそうした自己肯定感に他なりません。このWEB説明会では、各担当教員から様々な桐朋教育についての説明がありますが、その全てを貫くベースとなっているのは、これまで申し上げてきたような自由と自主性についての考え方であり、生徒を自立した学習者へと育てたいと願う教育の姿勢です。その点を意識されながらこの後の説明を聞いていただければと思います。

公開模試情報

四谷大塚9月 合不合判定テスト(9月13日実施)

前年比0.1%の増加。男子は0.7%の減少、女子は1.1%の増加。

9月度		年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	前年比
四谷大塚	男子	4科	6973	6887	6993	7094	7298	7271	
		2科	484	415	446	453	521	496	99.3%
	女子	4科	6204	5983	6017	6236	6140	6216	
		2科	420	348	417	442	525	519	101.1%
	合計		14081	13633	13873	14225	14484	14502	100.1%

9月三模試合計

三模試合計で前年比3.7%の減少。男子は3.8%の減少、女子は3.7%の減少。

9月度		年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	前年比
総計	男子	4科	17698	17597	17765	18069	18601	17788	
		2科	1678	1642	1752	1857	2036	2067	96.2%
	女子	4科	17281	17176	16898	17405	17182	16496	
		2科	1783	1850	1986	2144	2449	2411	96.3%
	合計		38440	38265	38401	39475	40268	38762	96.3%